森のたより

2.1.2017

保育見学会には多くの皆さんにおこしいただきました。本当にありがとうございました。

当日の感想やご意見もありがとうございました。これからのことを考える機会をいただきましたし、何よりもスタッフにとっては励みになりました。

さて、今月は課業の子どもたちのすがたについて考えてみようと思います。

課業を見学された感想に昨年は課業の輪に参加できてなかったけど、今年は参加できていて安心しました。というのを拝見しました。確かに参加は自由ですよと聞いていても、みんなの輪に加わっていないと「大丈夫だろうか」と心配になりますよね。でもご安心ください。

課業は毎日あるわけではありませんが、クラスの大人が子どもたちを誘うことから始まります。そのタイミングは大人の都合となります。全ての子どもがその時を待っているわけではありません。ひとりひとり、それぞれ何らかの意思を持って遊びを初めている。或いは始めようとしている。そういう時に誘われるわけですから「ｲﾔｰ今なの？困るﾅｱｰ」という場合もあります。

又、参加してみたもののその内容が良くわからなくて、つまらないので輪から出てしまう子もいれば、つまらなくても輪から抜け出たくても抜け出られない子もいます。ちなみに、そういう出られない子に抜け出ても良いよと声を掛けても「イヤ」といって抜けないのです。輪の中にいることが安心なのでしょうね。

逆に課業が始まり、耳からきこえてくる大人の声に、自分の選択したあそびより面白そうなので途中から自分で輪の中に入っている子もいますし、ジッと課業の輪を見ているので「入る？」と誘うとにっこり笑って輪に入る子もいます。

それでは、課業の輪から離れて自分のあそびをしている子たちがワイワイ騒いでいるかと言えば、けっこう静かに遊んでいます。課業の輪のじゃまをしないように心がけているのです。

実は課業をしている時間は実際の課業の輪の中だけでなく、クラスのみんなが課業を中心に学びの時間を作っているということなのです。それがそれぞれの主体性を大切にすることなのでしょう。

主体性の育ちは自分ひとりで育っていくということではありません。人と人との関わりの中で育っていくのです。それは心の育ちでもあります。お互いのことを思いやったり、大切にしようと心がけたり、頼りにしたり、頼られることを意識したり。全てこどもの心の中の出来事が心を育てるのです。

課業の輪に加わるから良いとか加わらないのでダメという判断は大人の目で見た判断です。子どもたちはもっと複雑な心で課業を体験しています。その体験が成長をうながすのです。

さて、私たち保育者は子どもの心の中でどのようなことが起こっているのかをいつも知りたいと思っています。心の中の出来事が行為に現れるから、行為に注目すれば心がわかるかといえば、NOですね。大人でも自分の行為の理由が全てわかっているわけではありません。理由もなく腹が立ったり、厳粛なときで緊張しているのに笑えてきたり。でも全ての行為には理由があるのです。

「どうして　そんなことするの？」と、こどもに尋ねて「わからない」という返事が返ってきても正解なのでしょう。本当にわからないこともあるのですから。

でもこどもの「わからない」の理由を予想することはできます。それは「不安」であったり「迷い」が原因である場合が多いのです。「不安」が「安心」になり、「迷い」が「安定」になれば「〇〇だったから」と行為の説明が出来ます。だから「不安」や「迷い」があるときには大人の目から見れば「どうしてそんなことするの？」という行為を繰り返すことが予想できます。

もちろん「主体の育ちを見まもること」と「わがままを見のがすこと」とは違います。「子どもの行為には全て理由がある」とのことですが、「わがままを見のがすこと」は簡単で、「主体の育ちを見まもること」は難儀なモノです。



な　が　ら

こどもの森

hokendayori

厳しい寒さの中でも、元気いっぱいな子どもたち。でも、低温･低湿の冬は、風邪のウイルスや細菌が大好きな季節です。現在、園ではインフルエンザに加えておたふくかぜも流行しそうです。
いずれにしても、風邪を寄せ付けない丈夫な身体作り、環境作りに気を配り、寒い冬を元気に乗りきりましょう！

おたふくかぜ(流行性耳下腺炎)とは

おたふくかぜはムンプスウイルスによる感染症です。感染力があり周囲に流行しやすい病気です。耳の下やあごの下がはれて痛みます。一度かかると再びかかることはありません。予防法としてはワクチンが有効です。３～６歳までの幼児が多くかかります。年によって大流行することがあります。

症状

感染してから潜伏期間の14～21日を過ぎると、耳の下やうしろが痛くなり、耳の下からあごの下にかけてはれてきます。主に唾液（だえき）をつくる耳下腺のはれです。片側から始まり両側がはれることが多く、２～３日ではれがピークに達します。１週間から10日ほどではれが引いていきます。１～４日間程度の発熱をともなうことが多く、食べ物を食べたり、飲み込んだりするときに痛みがあります。
おたふくかぜと判別がつきにくい病気として、反復性耳下腺炎があります。こちらは片側だけのはれで、発熱はなく、痛みも軽いのですが、繰り返して発症します。ほかの病気との判別がつきにくいときは、血液検査、ムンプスウイルスの抗体検査などをおこないます。
経過中ウイルスが背中の神経の束を守る髄膜（ずいまく）に炎症を起こして、髄膜炎を併発することがあります。つらい頭痛、嘔吐（おうと）などの症状が出ますが、多くの場合は完全に治り、後遺症は残りません。思春期以降にかかった場合、睾丸炎（こうがんえん）や卵巣炎を起こす場合があり、注意が必要です。

長良中学の3年生たちがクラスごとに4回訪問してくれました。子どもたちは大喜び。私たちは懐かしい顔も見ることが出来、すっかり成長した姿に驚く毎日でした。



色々なカタチの粘土があちらこちらに‥‥そろそろ窯入れ、そして焼成です。
土粘土は独特の感触でこどもの「つくってみたい」という気持ちを受け止めてくれます。でも、思い通りにならないという壁にすぐぶつかってしまいます。大人はなんとか自分のイメージを大切にとがんばるのですが、こどもは土の凸凹に自分のイメージを簡単にのりうつしてしまいます。ここでも子どもの感覚に脱帽です。
作品展をおたのしみに！！

2月の行事予定

- 2日　ECC
- 3日　まめまき
- 8日　わらべうた園内研修
- 14日･15日　発育測定
- 16日　ECC
- 16日～21日　かまたき
- 18日　フレベル乳幼児教育研究会
- 22日　避難訓練
- 24日　以上児クラス園内研修
- 24日～27日　岐阜市絵画展